

◇編集後記◇

北海道にもようやく春が、と思っていたところの大雪(3月20日)で、まだまだ春は遠いようである。北海道では札幌や札幌周辺への人口の集中と、他の地域における人口減少が続いている。本日(3月24日)公示された地価も札幌市では上昇しているが、それ以外で上昇している市町村はごくわずかである。他の県に比べると市町村合併も進んでいるとは言い難いが、それでも北斗市(大野町と上磯町)、洞爺湖町(虻田町と洞爺町)、大空町(女満別町と東藻琴町)などの新しい名前の自治体が誕生している。しかし、日高町(門別町と日高町)と新ひだか町(三石町と静内町)という類似した町名ができたり、伊達市(伊達市と大滝村)や釧路市(釧路市、音別町、阿寒町)のように飛び地であったりして、どうもすっきりしていない。

さて、北海道の経済や雇用は依然として厳しい情勢である。そのこととも大いに関係していると思われるが、北海道では他の都府県と比べて企業経営者のみならず従業員自身も健康管理や健康増進に関する意識が比較的低

いという印象はまぬがれない。実際、中小企業が多いにもかかわらず産業医の共同選任事業に応募する事業場数はむしろ減少傾向にある(平成17年度実績で59事業場)。また、深夜業従事者の自発的健康診断の件数も伸び悩んでいる(平成17年度実績で23人)。平成18年4月から実施される過重労働に陥っている従業員に対する医師による面接指導(ただし、50人未満の事業場は平成20年4月から適用となる)に関しても、北海道でどれほど効果を上げるかははなはだ疑問である。

北海道の冬場の気候は住んでみなければ分からない厳しさがある。それとは逆に、豊かで美しい自然環境・観光資源、豊富な農業資源・漁業資源など、北海道に特有の良さは多々ある。そのような資源を有効に活用して、北海道にふさわしい経済的發展を遂げることが求められている。そして、そのような発展とともに、健康で活力のある産業人が増えることが望まれる。

(森 満)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也(和歌山医大)

副委員長：圓藤陽子(東京労災病院)、武林 亨(慶應大)、堤 明純(岡山大)、

本橋 豊(秋田大)、森 満(札幌医大)

荒木田美香子(大阪大)、有澤孝吉(徳島大)、市場正良(佐賀大)、掛本知里(東京女子医大)、上島通浩(名古屋大)、車谷典男(奈良医大)、甲田茂樹(高知大)、河野公一(大阪医大)、西條清史(金沢大)、榊原久孝(名古屋大)、澤田晋一(産医研)、塩飽邦憲(鳥根大)、笹島 茂(国立保健医療科学院)、埴田和史(滋賀医大)、谷川 武(筑波大)、錦戸典子(東海大)、橋本英樹(帝京大)、濱田篤郎(海外勤務健康管理センター)、保利一(産業医大)、森河裕子(金沢医大)、森田 学(北海道大)、森本泰夫(産業医大)、八幡勝也(ヒューマンメディア財団)、若林一郎(山形大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番